

2015年度 センター試験 本試験 地理 A

第1問 地理の基礎的事項

出題範囲	地図, 地形, 環境問題, 植生, 農牧業, 生活文化, 宗教
難易度	★★☆☆☆
所要時間	9分半
傾向と対策	2015年度の第1問は, 例年通り地図の読み取りを扱った問題と世界地図に示された地形や気候などについての問題で構成され, 地理的分野のさまざまな知識が問われる。しかし, ほとんどは教科書レベルの知識で解答できる基礎的な問題である。2015年度に関しては, 宗教分布をしっかりとおさえていること, 地形図から地形を想起できること, フォガラの正確な知識が備わっていることがポイントである。

問1 1 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

時差を直接問う問題。確実に正解したい。

地点Aは, アメリカ合衆国のニューヨーク付近である。東京(成田)から地点Aに向かう場合は, 日付変更線を通らないので, 単純に時差を考えることができる。本初子午線より東側の180度に含まれる日本のほうが, 西側180度に含まれるアメリカ合衆国より標準時が進んでいるのは明白である。

地点Aに着くまで12時間45分かかったのであるから, 地点Aに着いたとき東京(成田)の時刻は翌日の0:15になっている。地点Aが10:15の時に東京(成田)の時刻は翌日の0:15であるから, 時差は14時間である。よって, 正解は③。12時間45分が経過しても出発した時の東京(成田)の時刻より, 到着後の地点Aの時刻が早いことから, 時差が12時間より大きいことは自明である。

問2 2 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

基本的な問題だが, 意外と誤答しやすいので注意しよう。火山に限ることが重要な着眼点である。

- ① 正 アは, 新期造山帯である環太平洋造山帯の一部で, アリューシャン列島である。この海域には海溝が存在し, それに沿うように形成されている弧状列島に火山が多い。よって, 火山が分布するので適当。
- ② 正 イは, 大西洋中央海嶺上のアイスランド付近である。海嶺はプレートの生まれる場所であり, 海嶺上では高温のマグマが噴出する。そのためアイスランドでは火山活動が活発であり, ギャオと呼ばれる大地の割れ目が存在する。よって, 火山が分布するので適当。

- ③ 正 ウは、**アフリカ大地溝帯**の一部である。ウの南には**タンガニーカ湖**や**マラウイ湖**といった細長い断層湖があり、火山活動が活発で、ウ付近にある**キリマンジャロ山**はアフリカ大陸の最高峰である。
- ④ 誤 エは、新期造山帯の**アルプス＝ヒマラヤ造山帯**の一部である**ヒマラヤ山脈**付近である。火山は多くないので、**適当でない**。アルプス＝ヒマラヤ造山帯は、概して陸のプレート同士がぶつかっている部分が多いため、**褶曲運動**などは盛んでも、プレートの沈み込みが起こりにくく、火山活動は活発でないケースが多い。

問3 3 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

絶滅危惧種に関連した問題。日ごろから身のまわりのニュースに関心をもっていれば解けるだろう。

- ① 正 地球温暖化によって北極圏の氷が解けると、ホッキョクグマの生息域が縮小し、個体数の減少につながるのではないかと懸念されている。
- ② 正 クロサイは犀角（サイの角）などのために乱獲され、個体数の減少が危惧されている。各国は保護の対策を講じているが、密猟はなくなっていないのが現状である。これらはゾウなどに関してもいえる。
- ③ 正 オランウータンは、熱帯の東南アジアを中心に生息する動物で、主に樹上で生活するため、森林伐採が生息域の減少、ひいては個体数の減少につながる。
- ④ 誤 オーストラリアの森林面積を減少させている要因としては、森林伐採や山火事などが挙げられる。森林面積の減少が樹上で生活するコアラの個体数減少につながるの**は正しい**。しかし、酸性雨は化石燃料の燃焼によって引き起こされるのであるから、工業化が進展している地域で問題となる。したがって、本問の**原因は酸性雨ではない**ので下線部は**適当でない**。

問4 4 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

雨温図が出ているが、問われている中心は植生である。消去法で解いてもよい。Mは、タイの森林地帯である。この付近は、**熱帯モンスーン気候（Am）**で、気温が年中高く降水量が月によって大きく異なる。この付近では、乾季には葉を落とす**広葉樹林**が多い。したがって、正解は③である。

- ①, ② この雨量で砂漠やステップであることはまずない。Mの周辺環境にも合致しない。
- ④ 硬葉樹は主に**地中海性気候（Cs）**下で見られる、乾燥に耐えうる幹や葉をもった樹木のことで、オリーブやコルクガシなどがその典型例である。地中海性気候は緯度 30 ～ 40 度の大陸西岸にみられる温帯気候であるため、これは M の周辺の年中高温の気候に合致しない。

問 5 5 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

地理の頻出テーマである地下水路を取り上げた問題。確実に正解したい。

写真の灌漑施設は、北アフリカでは**フォガラ**、イランでは**カナート**、アフガニスタンでは**カレズ**、中国では**カンアルチン**などと呼ばれている伝統的な地下水路である。何本も縦穴を開けて地中から水を導くことによって、乾燥地帯でも蒸発させることなく水を得ることができる。この技術により、乾燥地域でも小麦や**ナツメヤシ**などの栽培が可能となった。

以上より、地下水路が存在する北アフリカ、西アジアに位置する **Q** と **R** となる組み合わせの④が正解である。

問 6 6 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界の文化を問う問題。この問題も予備知識が中心になるだろう。

写真と説明から、ジャズだとわかる。**ジャズは、アフリカ系の音楽と西洋音楽が融合して生まれた音楽**で、アフリカから北アメリカ大陸に連れてこられた黒人奴隷たちがジャズの誕生に大きな役割を果たしたとされている。よって、解答は唯一北アメリカ大陸にある **W** である。ジャズの発祥がアメリカ合衆国であることを知らないと難しいと思われる問題だ。ちなみに **W** は、南部の中心都市でミシシッピ川の河口に位置する**ニューオーリンズ**。

ジャズ発祥の地であり、黒人の人口比率が全米に比して高い地域でもある。

問 7 7 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

世界の宗教人口の分布に関する問題。宗教に関して問われる内容はどれも基礎知識で対応できることが多いので、得点源にできるようにしよう。

- ① アフリカが該当する。イスラーム教徒が多いことからアジアかアフリカに絞り、ヒンドゥー教徒が少ないのでアフリカであるとわかるだろう。イスラームは西アジアで生まれた宗教だが、現在はサハラ以北のアフリカを中心として、アフリカにも多数の宗教人口を抱えている。
- ② アジアが該当する。ヒンドゥー教徒が多いことからアジアであるとわかる。ヒンドゥー教は宗教人口が多いにもかかわらず、世界宗教ではなく民族宗教にとどまっている。これはヒンドゥー教徒のほとんどがインドにいるためである。
- ③ カトリック教徒が多いことからヨーロッパが該当する。カトリック世界の中心であるバチカン市国があり、フランスからドイツ南部に至るまで多くの地域で中心的に信仰されている。逆にヨーロッパでプロテスタントが多いのは北欧やイギリス、ドイツ北部などである。

- ④ 北アメリカが該当する。北アメリカに位置するカナダとアメリカ合衆国は、先述のようにイギリスからの植民を中心とした国家であるため、プロテスタント人口が多く、特にアメリカ合衆国では **WASP** (White Anglo-Saxon Protestant, アングロサクソン系の白人, プロテスタント) が白人エリートで保守派の代表格とされてきた (歴代の大統領はほとんどが WASP である)。近年は、グローバル化の進行やヒスパニックの流入によってカトリック教徒の割合が多くなっている。

◆参考 ヨーロッパの民族・宗教分布

【民族】

- ・ドイツ, イギリス, 北欧など北部→ゲルマン系
- ・フランス, スペインなどの南部→ラテン系
- ・ウクライナ, ロシアなどの東部→スラブ系

【宗教】

- ・ゲルマン系→プロテスタント
- ・ラテン系→カトリック
- ・スラブ系→東方正教

【例外】

1. スラブ系民族が多いが、カトリック信者が多い

→ポーランド, スロバキア, チェコ, スロベニア, クロアチア

2. ゲルマン系民族が多いが、カトリック信者が多い

→オーストリア

3. ラテン系民族が多いが、東方正教信者が多い

→ルーマニア

問 8 8 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

地形図を用いて、地形を観察した向きを答えさせる問題。類題の中では難易度が高い。

地形図の具体的特徴に着目する。この島には大まかに 4 つ山頂がある。図 3 の右側にある 2 つの山頂 (A 群とする) を比べると、上側 (①側) の山のほうが高い。左側の 2 つの山頂 (B 群とする) は同程度の高さとなっている。図 4 を見ると、向かって左側に高さの違う 2 つの山頂がありこれが A 群、向かって右側にほぼ同じ高さの 2 つの山頂がありこれが B 群であることが確定できる。この時点で図 4 を見たときに、向かって左側に A 群が見

えるので、①か④に限定できる。

図 4 では、A 群の山と B 群の山との間に標高が低い場所があるが、これは④から見ると確認できない。よって、正解は①である。

(制作：高橋粒，梶凌慎)

2015年度 センター試験 本試験 地理 A

第2問 国境を超えた結びつき

出題範囲	工業, 交通・通信, 国家
難易度	★★★★☆
所要時間	11分半
傾向と対策	2015年度の第2問は、国境を超えた結びつきをテーマとして、企業の海外進出や日本からの直行便、国家間の条約などが出題された。図は未知のものがほとんどであったかもしれないが、出題分野としては例年地理Aで出題されるオーソドックスな内容であった。対策としては、過去問に習熟して類題に通底する知識を会得することが最も確実で有効である。この問題を通して日本の観光業の特徴をおさえておこう。

問1 9 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

日本の貿易の変化を追った問題。まず大前提として、発展途上国から一次産品を輸入して工業製品（機械類など）を輸出する垂直貿易が多く、同じ先進国とは工業製品を輸出し合う水平貿易が行われることが多い。

ア 中国が該当する。1970年時点ではほとんど機械類を日本に輸出しておらず、日本もあまり機械を輸出していなかったことがうかがえるが、2012年段階ではどちらも50%前後という高い水準に達している。これは、1970年時点では文化大革命後の混乱で低迷していた中国が、改革開放政策後に工業化に成功し、急速な経済成長を遂げたことが背景となっている。改革開放政策とは、社会主義体制を維持しつつも、それまでの計画経済から市場経済に移行したり、南部に経済特区を設置したりするなどして、産業の発展を図るというものであった。また、中国国内での資源の使用量が増え、中国が資源の輸出国から輸入国になったことで、輸出品目の中で機械類の占める割合が相対的に上昇したことも考えられる。

イ インドネシアが該当する。1970年時点では、日本からの機械類の輸出はあるものの、日本に機械を輸出することはなく、現在でもその傾向が残っていることがうかがえる。これはインドネシアが石油などを産出する豊富な資源大国であり、日本はその輸入国となっているため、日本の輸入品目が資源中心になるからである。

ウ ドイツが該当する。ア、イが1970年時点では工業が未発達で日本への工業製品の輸出がほとんどみられないのに対し、ウとは工業製品を輸出し合っている。よって、ウは先進国のドイツであることがわかる。現在、日本はドイツから乗用車や医薬品などを輸入している。

以上より、アが中国、イがインドネシア、ウがドイツとなる組み合わせの③が正解である。

問 2 10 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

日本企業の海外進出を問う問題。海外に進出する日本の工業に関する基礎的な認識が問われる。

- ① 正 加工組み立て工場は高度な技術を必要としないため、日本では高度経済成長期以降、まず土地と人件費が安く交通の便のよい東北や北関東などへの立地が進んだが、バブル期以降は人件費の高騰などを背景に、より人件費の安い海外への進出が大きな潮流となった。代表的な進出先として、中国やタイ、近年はベトナムやミャンマーといった東南アジア諸国への進出もみられる。
- ② 誤 中国の経済特区は、税制上の優遇策などにより外国資本を導入し自国の工業化を図ろうとする政策によって置かれたものであり、金融業を中心としたサービス業が進出するというのはその目的になじまないもので、文は適当でない。アジアで世界的な金融センターとなっているのは東京、シンガポール、その他では香港や上海が挙げられる。
- ③ 正 日本企業は新幹線といった交通網や都市の衛生環境、ライフラインの整備など、さまざまな面で発展途上国のインフラ整備を行っている。
- ④ 正 1980 年代にかけて、アメリカ合衆国への日本車の輸出が拡大し、アメリカ合衆国は大幅な貿易赤字になるとともに自動車産業が打撃を受けた（貿易摩擦）。これを是正するため、日本は日本車を現地労働力や現地の下請け工場を用いて現地生産するとともに、それまで関税で保護してきた牛肉、オレンジの輸入自由化を決めた。

問 3 11 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

インターネットの普及率を取り扱った問題。授業で触れることは少ないが、センター試験では情報化社会に関する問題は頻出事項なので、類題を解いて大まかな傾向を把握しよう。

- ① アメリカ合衆国が該当する。最も 10% を超えるのが早かったと読み取れる。よって、最もインターネットの導入時期が早いアメリカ合衆国であるとわかる。もともと、アメリカが軍事目的に開発したインターネットの商業利用は 1990 年に始まり、世界中に急速に拡大した。
- ② 日本が該当する。日本は、韓国、ロシアよりは導入時期が早いはずだと考える。日本は比較的インターネットの普及率が高いが、高齢者などインターネットの恩恵にあずかりにくい層もおり、情報格差（デジタル・デバイド）の問題を抱えている。
- ③ 韓国が該当する。特徴的なのは、10% を超えたのはアメリカ合衆国や日本より遅かったにもかかわらず、非常に短期間で普及率が 50% を超えている点である。韓国は積極的に情報産業や先端産業に参入した結果、インターネット大国となっている。
- ④ ロシアが該当する。4 つの中で最も 10% を超えるのが遅い。ロシアは 1991 年のソ連崩壊後、長らく社会不

安と経済の不振が続いていたため、1990 年代に急速に拡大したインターネットへの対応が遅れた。

問 4 12 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

飛行機の航空路を取り扱っているが、**正距方位図法**に関する知識が要求される難問である。

飛行機はおおむね 2 点間を最短距離で結ぶ。よって、東京からの方位と所要時間を正しく示した図は、東京を中心とした正距方位図とおおむね一致するはずである（メルカトル図法ではないことに注意）。東京を中心とした正距方位図法で描かれた地図を見てみよう。日本の北東に北アメリカ大陸があり、真東に**ハワイ**がある。ほぼ真南にオーストラリアがあり、**バンコク**やシンガポールといった東南アジアの諸都市が南西に、**北京**は北西に、さらにそのまま北西の方へ目線をやると、遠くのほうに**ロンドン**や**パリ**といったヨーロッパの諸都市が位置している。

- ① **グアム**やオーストラリアの東海岸などにわずかに直行便がある D と考えられる。直行便のある都市がほとんどない。D の路線は南太平洋が占めており、ここに都市が少ないのは自明である。
- ② 右上のほうに直行便の多い都市が集中していくつもある。これはバンコクやシンガポール、**香港**といった東アジアの南部から東南アジアにかけての地域が含まれる C と考えられる。この地域への就航本数は非常に多く、近年さらに本数を伸ばしている路線である。
- ③ **ソウル**や北京といった東アジア北部の都市と、ヨーロッパの都市の両方を範囲に含む B と考えられる。右下に直行便の多い都市がいくつかあり、上のほうにも直行便が中程度就航している都市がいくつか確認できる。特にメルカトル図法で見ると、ヨーロッパは日本から見て真西にあるような錯覚を抱きやすいが、実際にはこのように北西の方角にあることを確認しよう。
- ④ 日本の真東には就航本数の多い**ハワイ**があり、北東には北アメリカ大陸があることから A と確定できる。中央下に 1 つ直行便の多い都市があり、上方にも直行便のある都市が散らばっている。③との違いは、④の図の中央部には比較的直行便の多い都市が 2 つ見られることだろう。これは北アメリカ大陸の西海岸の都市である。

他分野にわたる知識を要求される問題である。練習で解く際は C のみの判別にとどまらず、A ~ D すべて特定できるように取り組み、実力の向上につながるだろう。

問 5 13 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

国際旅行収支という言葉は耳慣れないかもしれないが、注釈に目を通して理解してから問題に臨むこと。具体例を挙げるならば、「外国人が日本に来て使ったお金」が「日本人が外国に行って使ったお金」より大きければプラスに、小さければマイナスになる。最終的に日本からお金が出ていくのか、入ってくるのかと考えてもよい。

- カ エジプトが該当する。国際旅行収支が大きく黒字となっており、ヨーロッパからの旅行者も多い。エジプトは多様な遺跡群によって観光業が盛んであり、比較的ヨーロッパからの距離が近いことによりヨーロッパから多数の観光客を受け入れている。
- キ オーストラリアが該当する。国際旅行収支は黒字であるが、ヨーロッパからの旅行者はカと比較すると少ない。オーストラリアはシドニーやメルボルンといった都市のほかにグレートバリアリーフ、エアーズロックといった自然の観光資源が多く、旅行者に人気の国である。特に近年では、地理的な近さから日本や中国といったアジアからの観光客が増加傾向にある。
- ク 日本が該当する。3カ国で国際旅行収支が唯一赤字である。日本は京都や奈良といった歴史的な文化遺産などさまざまな観光資源をもつが、欧米からの距離が遠いことに加え、外国人観光客へのPR不足が指摘されてきた。近年は、中国を中心としたアジア諸国からの観光客の増加によって観光業が脚光を浴びており、2015年には日本の国際旅行収支は黒字に転じた。
- 以上より、カがエジプト、キがオーストラリア、クが日本の組み合わせとなる①が正解である。

問6 14 正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

海底ケーブルに焦点を当てた珍しい問題。このような問題の場合は、既存の知識をどれだけ利用できるかが試される。この小問の場合においては、海底ケーブルを敷設するのは当然陸地の近くだと考え、海底ケーブルの本数が多いところは海岸線とおおむね一致するのではないか、という推理からスタートするとよい。

- サ M (大西洋) が該当する。図をよく見てみると、南アメリカ大陸の西岸と、アフリカ大陸の東岸の海岸線に似たシルエットのケーブル網が確認できる。また北方の集中的に海底ケーブルが敷設されている部分は、ヨーロッパの北部とアメリカ合衆国をつなぐケーブルであると推測できる。
- シ N (太平洋) が該当する。ケーブルが集中し、かつ海岸線に似たシルエットのケーブル網が形成されていないことから、ほとんど図中に陸地のないNだとわかる。日本の標準時が東経135度線によって決められていることは周知の事実であるから、東経140度付近から大量に出ているケーブルはおおむね日本からだと推定できる。よって、東アジアと北アメリカを結ぶケーブルが多い理由も理解できる。
- ス L (インド洋) が該当する。アラビア半島と東アフリカの海岸線に沿ってケーブルが敷設されていることがうかがえる。アラビア半島付近は比較的是っきりと海岸線が把握できるため、スの確定を最初に行うと吟味しやすくなる。

以上より、サがM、シがN、スがLの組み合わせとなる④が正解である。

問 7 15 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

国家間の結びつきをテーマにした適文選択の問題。日頃のニュースへの理解度が土台となる問題である。

- ① 誤 経済のグローバル化、特に情報発信技術の進歩によって、むしろ今までよりも情報発信のハードルは下がり、非英語圏諸国からの**文化的発信力は強まった**。日本のアニメやゲームといったサブカルチャーが欧米のみならず世界中で受け入れられていることからわかる。
- ② 誤 共通通貨の代表例は、2002 年より一般流通の始まったユーロであろう。一般的に、金融不安になると各国は自国の経済の安定化に努めるため、共通通貨の導入には慎重になる。比較的経済協力の進んでいる東南アジア諸国においても、タイのバーツが下落したことに端を発し周辺各国に不況が拡大した**アジア通貨危機**という前例もあり、**共通通貨導入への強い動きは今のところない**。
- ③ 正 1992 年、ブラジルの**リオデジャネイロ**で開かれた**国連環境開発会議**では**気候変動枠組条約**が採択され、1997 年には国ごとの温室効果ガスの削減目標を定めた**京都議定書**が採択されるなど、地球温暖化に対する**国際的な取り組みが行われてきた**。しかし、実際には、アメリカ合衆国が京都議定書から離脱したことや、現在 CO₂ の最大排出国となっている中国などの途上国の排出量を規制しないことなどから、その効果を疑問視する声も多い。
- ④ 誤 東西冷戦の時代には、アメリカ合衆国を中心とした西側陣営、ソ連を中心とした東側陣営で軍事機構の設立が盛んだったが、冷戦終結後は軍事機構の設立があまり行われず、国連による **PKO など軍事機構に依らずに紛争の解決を目指す動き**が目立った。

(制作：高橋粒，梶凌慎)

2015年度 センター試験 本試験 地理 A

第3問 東アジアの地誌

出題範囲	東アジア, 地形, 気候, 農牧業, 人種・民族, 生活文化, 貿易, 工業
難易度	★★★☆☆
所要時間	11分半
傾向と対策	地理 A では例年, 第3問に特定の地域の地誌問題が出題されているが, 2015年度については東アジアに関する設問だった。東アジアは日本と関わりの深い地域であり, 身近なだけに解きやすく感じた人も多かっただろう。中国は農牧業, 工業産業に関して問われるテーマが多いため, 地誌を学ぶ上で重視しておきたい国である。気候の問題は, 思考力が試されるオーソドックスな自然地理の問題なので, 地理 B 選択者にも解くことを勧めたい。

問1 16 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

東アジアにおける地形に関する問題。この地域の地形に関する基本的な知識があれば, 正解にたどり着くのは困難ではないだろう。

- ① 正 ア付近にある大山脈とは, **ヒマラヤ山脈**のことである。ヒマラヤ山脈は, ユーラシアプレートの下にインドプレートが潜り込んで隆起し形成された山脈である。
- ② 正 イは**チベット高原**である。図2を見てもわかるとおり, 標高はかなり高く世界で最も高い高原である。
- ③ 正 ウ付近に見られる盆地とは, **スーチョワン盆地**のことである。**長江**流域に形成されており, 図からもわかるとおり標高はかなり低い。なお, スーチョワン盆地では夏の季節風の影響で高温多雨となり, 稲作が盛んである。
- ④ 誤 エ付近は, 長江の中流から下流にかけての地域となっている。**侵食平野**とは, 河食や風食によって侵食作用を受けて形成された平野である。対して, 河川などの運搬作用によって土砂などが堆積して形成された平野を**堆積平野**という。この地域は堆積による**沖積平野**であるため, 侵食平野と書いてあるこの選択肢文は適当でない。

細かい平野の知識がなくとも①～③が正しい内容であることを判断するのは難しくないため, 消去法で選んでもよいだろう。

問 2 17 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

都市における雨温図に関する問題。各都市の**隔海度**や緯度を意識して考えよう。

- ① 4つの都市の中から考えると、**ウランバートル**に該当する。降水量は全体として少なく、冬季の月平均気温が最も低い。気温の年較差が大きいため、内陸部で、さらに北部に位置している都市であることがわかる。
- ② **ソウル**が該当する。夏季と冬季の降水量の差が激しく、冬季の月平均気温も比較的低い。季節風の影響で夏季に降水量が特に多くなっていることから、こうした季節風の影響を受けやすい沿岸部に位置している都市だとわかる。この時点でソウルか東京かに絞られるが、冬季の月平均気温に注目すると、より高緯度にあるソウルと考えるのが妥当である。なお、朝鮮半島は亜寒帯に属する地域もあり冬の寒さが厳しい。外の焚口で火を焚き、その熱気を床下に通す伝統的な暖房方法である**オンドル**も覚えておきたい。
- ③ **ペキン**が該当する。冬季の月平均気温が比較的低いことから高緯度にあることがわかる。降水量をソウルと比べて、季節風の影響を受けづらい内陸にあるペキンだと考えたい。
- ④ **東京**が該当する。1年を通じて降水量が多く、気温の年較差は小さい。このことから、**温暖湿潤気候 (Cfa)**に属する東京であると判断できる。この小問では、東京は積極的に特定しやすいため、ここから選択肢を絞っていくようにしたい。

問 3 18 正解は③

難易度 ★★★★★☆

解説

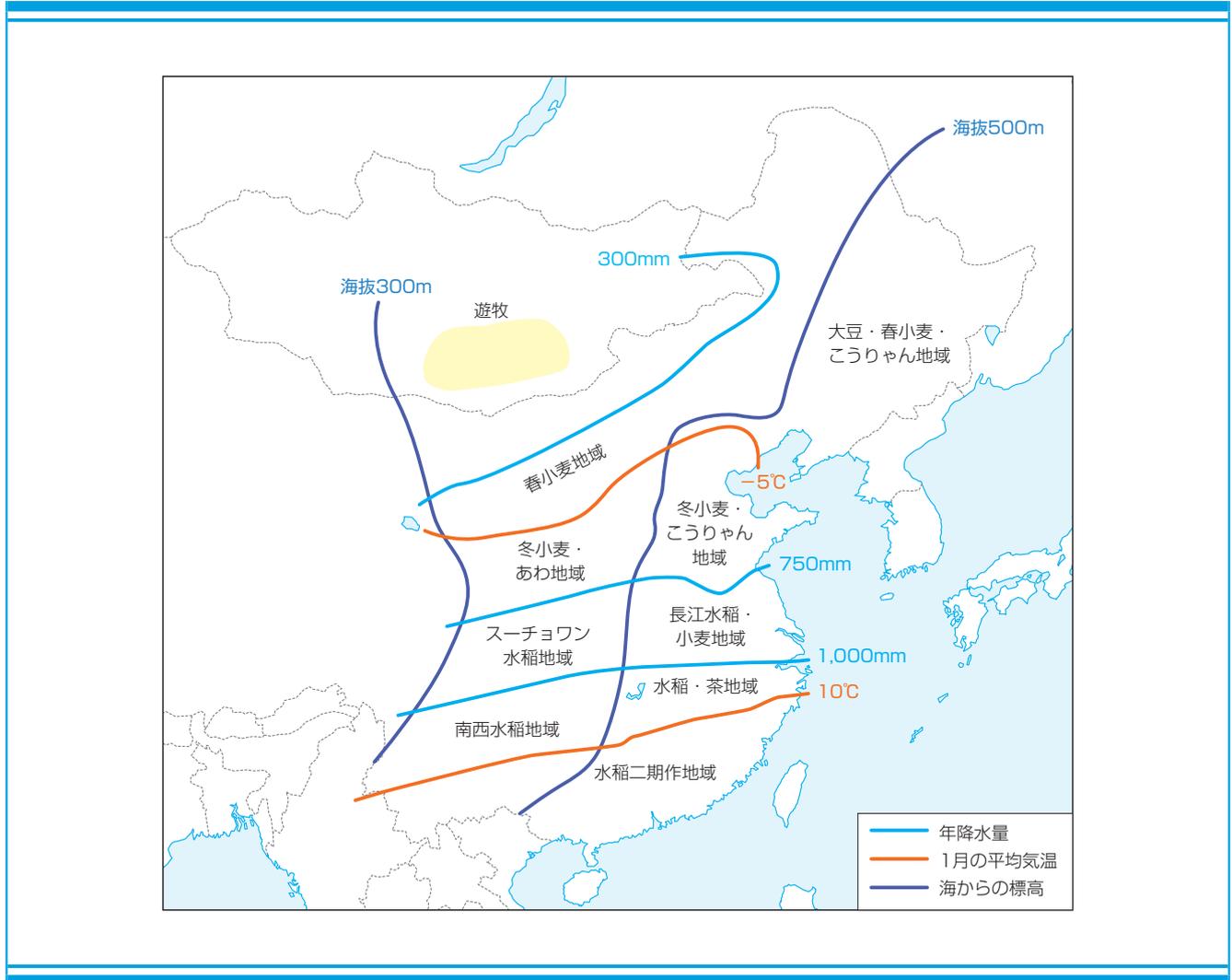
東アジアの農牧業の分布に関する問題。気候と合わせて出題されやすい分野なので、要注意である。特に中国の農業は、年降水量や1月の平均気温で大まかな地域ごとの特徴を分けることができるので、それも意識しておこう。

- ① 正 **ゴビ砂漠**周辺に位置する A の**モンゴル高原**は短草草原が広がる**ステップ気候 (BS)**であり、馬やヤギなどの**放牧がみられる**。モンゴルでは、家畜と移動する遊牧がおもに行われており、組み立て式の住居である**ゲル**が用いられている。
- ② 正 B の東北地方は1月の平均気温が -6°C を下回る寒冷な地域である。おもに畑作で**大豆やトウモロコシ**が生産されており、大豆もトウモロコシも中国内の生産最上位省は東北地方の省である（ヘイロンチャン省、チーリン省）。また、東北地方では大豆やトウモロコシのほか、春小麦やこうりゃんの生産も盛んであることを覚えておきたい。
- ③ 誤 C は華北の内陸側の地域であり、年降水量は750mm未満である。確かに冬小麦は生産が盛んであるが、年降水量を考えると**米が多く生産されているとは考えにくい**。
- ④ 正 華南の南沿岸部である D は、年降水量は1,000mm以上、1月の平均気温は 10°C 以上と高温多雨な地

域であるため、**水稻の二期作が盛ん**である。

最後に、次のページで中国の農産物ごとの大まかな穀物栽培区分図を確認しておこう。

◆地図 中国の穀物栽培



問 4 19 正解は⑥

難易度 ★★★★★

解説

中国の少数民族と自治区に関する問題。中国は、大多数を占める漢民族と 55 の少数民族からなる国である。これを踏まえて、各選択肢を考える。

カ M である。「中国の少数民族の中では最も人口が多く」から、**壮（チョワン）族**の居住する**コワンシー壮族自治区**だとわかる。

キ L である。「羊やヤクの遊牧」「独自の発展を遂げた仏教」から、チベット仏教を信仰するチベット族が分布している**チベット自治区**であることがわかる。

ク K である。「アラビア文字をもとにした字体」から、アラブ地域やイスラーム圏の影響を受けている民族であ

るウイグル族が分布するシンチャンウイグル自治区だとわかる。近年漢語の話者が増えてきたことなどは細かい知識であるが、イスラーム圏の影響を受けたことと、選択肢中にニンシャホイ（回）族自治区が見当たらない点から選ぶことはできるだろう。

以上より、K がク、L がキ、M がカとなる組み合わせの⑥が正解である。

ここで、中国における民族自治区に関する重要な知識を、いま一度確認しておこう。

◆地図 中国の自治区



◆ 中国の民族と自治区

・シンチャンウイグル自治区

おもにトルコ系民族のウイグル族が分布している。人口の約半数以上がイスラーム教徒である。また、オアシス農業が盛んである。区都はウルムチ。オアシス農業の農業用水を導水するのに、カンアルチンと呼ばれる地下水路を利用している。

・チベット自治区

チベット仏教（ラマ教）を信仰するチベット族が居住している。チベット高原に位置しており、ヤクや羊の遊牧が行われている。区都はラサで、チベット仏教の聖地である。

・内モンゴル自治区

モンゴル族が居住している。区都はフホト。

・ニンシャ回族自治区

アラブ系の、イスラーム教を信仰する回（ホイ）族が主に分布している。区都はインチョワン。

・コワンシー壮族自治区

中国の少数民族の中で最も人口の多い壮（チョワン）族が主に居住している。コイリン（珪林）が区内にある。区都はナンニン。

問 5 20 正解は③

難易度 ★☆☆☆☆

解説

東アジアの食事の作法を問う問題。確実に得点しよう。

サ 中国に該当する。大皿から直接料理を取って食べるのは中国の食事の特徴。取り箸が置かれていないのも特色。

シ 韓国に該当する。金属製の箸と匙さしを使用するのは韓国の食事の特徴。ナムルやキムチなどのおかずが小皿に盛られ、品目が多いのが特色。食器は手で持たず、おかずを食べるとき以外は箸を使わない。

ス 日本が該当する。一汁三菜は伝統的な日本の食事の特徴。食べるときに食器を手で持つのが特色。

以上より、サが中国、シが韓国、スが日本となる組み合わせの③が正解である。

問 6 21 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

GDP、輸出額からそれに対応する国を考える問題。本問は GDP の大小だけでも十分判断できる。ほかに、内需依存度や中継貿易依存度もヒントになる。

- ① GDP が圧倒的に大きい**中国**が該当する。中国の GDP は 2010 年に日本の GDP を抜き、アメリカに次ぐ世界 2 位となった。年率約 8% の成長率を維持し、現在では日本の約 2 倍にまで成長している。また、中国は輸出額世界 1 位である。
- ② GDP が中国の次に大きい**日本**が該当する。
- ③ GDP が日本の次に大きい**韓国**が該当する。国内市場が小さいため、サムスン電子などをはじめとする財閥企業の輸出部門が GDP を押し上げている。
- ④ **香港**が該当する。輸出額が GDP 比 100% を超えていることから、この地域では加工貿易より**中継貿易**が盛んであると考えられる。香港は狭い地域であり、地域内の市場はかなり小さい。そのため、立地を生かした中継貿易が行われている。輸出総額のうち、中継貿易分は約 90% ともいわれ、中国、アメリカの貿易の仲立ちをしている。

問 7 22 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

中国の**西部大開発**政策に関する問題。中国は改革開放や経済特区設置などにより、東部沿岸部の経済発展が急速に進んだ。その一方で、内陸部は工業化が進まず、所得格差が拡大していった。この格差を是正するため**西気東輸**、**南水北調**、**西電東送**、**青蔵鉄道**を柱とする西部大開発を行い、工業化の促進やインフラ整備を行った。

- ① 正 西気東輸事業は、内陸のシンチャンウイグル自治区に位置する**タリム盆地の天然ガス**を、パイプラインを通じて**東部の工業地域に輸送**することを目的とした事業である。しかし、この事業は資源開発に終始し、内陸部の産業振興という役割は果たされていないとの見方もある。
- ② 正 **シーニン**と**チベット自治区**の中心都市**ラサ**を結ぶ**青蔵鉄道**についての説明。**チベットへの貨物輸送**の大部分を担う重要な路線である。また、この鉄道は標高 5,000 m を超える区間も走り、世界最高標高の鉄道駅があることでも知られている。
- ③ 誤 南水北調事業は黄河流域の慢性的な水不足を受け、長江から北部地域に向けて引水路を引いて**北部の水不足を解消**することを目的としたものであり、文は適当でない。南水北調事業とは関係ないが、工業用の発電を目的としたダムとしては、長江にある世界最大の発電量を誇る**三峡（サンシャ）ダム**や、黄河にある**三門峡（サンメンシャ）ダム**、**劉家峡（リウチャシャ）ダム**がある。かつて、黄河下流では、下流での農業・工業用水としての河川水の利用増加や三門峡ダムや劉家峡ダムでの貯水量の増加によって**断流現象**が起こったが、現在、各省・自治区がもっていた取水権限が黄河水利委員会に一元化されて水管理がなされるようになると、断流は起こらなくなった。しかし、流量は依然として少ないままである。
- ④ 正 台湾の**台北**と**高雄**を結ぶ**高速鉄道**の説明。初めて日本の新幹線技術を海外に輸出した例である。車両をはじめ、**日本の技術を多く取り入れて**おり、台湾新幹線と呼ばれることもある。

(制作：吉田七海統，來住直哉)

2015年度 センター試験 本試験 地理 A

第4問 文化・民族・国家・社会

出題範囲	人口, 食糧問題, 人種・民族, 宗教, 国家
難易度	★★★☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	2015年度の第4問は, 地球的課題と国際協力に関する問題であった。同大問では, 例年このような問題が出題されるので, しっかりと対策を立てておきたい。この分野では, 世界的に幅広い分野の問題が出題される傾向が強いため, 普段から環境問題や人口問題, 自然災害や文化の差異などに注目したり, 国際的な問題をニュースなどで見たりしていれば解きやすくなる。時事問題には敏感に対応できるようにしたい。

問1 **23** 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

人口ピラミッドに関する基本的な問題。人口ピラミッドの型について理解していれば容易に解けるであろう。人口ピラミッドとは, 性別と年齢に分けて人口構成を示したグラフであり, 縦軸に年齢, 横軸に構成割合や人数を示すことによって出生率や死亡率の推移を知ることができる。人口ピラミッドにはいくつかの型があり, 型と, その型がどのような経済水準の国で発生するのかを理解していけば, このような問題にはたいてい対応できる。

- ① 正 アはイに比べて出生率が低い傾向にあると書いてある。確かに0～15歳の人口を見ると, アよりもイのほうが多いので, アよりもイのほうが**出生率が高い**といえる。
- ② 誤 ウは確かにイに比べて年少人口が少ないため, 乳児死亡率が高いといえると思うかもしれないが, 年齢が高い層の人口構成比に関しては, ウのほうがイよりむしろ高い。このことから医療・福祉や衛生状態はウの方が良好, すなわちイのほうが**死亡率が高い**と考えられ, 乳児死亡率だけウのほうが高いと考えるのは不自然だ。よって, ウの年少人口が少ないのは**出生率が低いことが原因**であると考えられるため, この文は適当でない。
- ③ 誤 一般に, 年齢が高い層の人口が多いほうが衛生状態はよく, 死亡率が低いと考えられる。19世紀以降, 医療が進歩していることから**死亡率が高いイから死亡率が低いアへ変化した国は多い**といえるだろう。
- ④ 誤 人口構造の転換は, どちらかというといのようなピラミッド型からアのような釣鐘型への変化が多く, 発展途上国はいまだにイの**ピラミッド型が多い**ので, この文は適当でない。

◆ 人口ピラミッドとその型

【富士山（ピラミッド）型】

出生率が高い一方、死亡率も高い多産多死型、または出生率が高い一方、死亡率が低い多産少死型である。多産多死だと人口は漸増し、多産少死ならば人口は急増し、**人口爆発**が起こる。多産多死から多産少死に移行するにつれて乳児死亡率が低下し、平均寿命が伸びるため、ピラミッドの傾斜が急になる。このような傾向を示すのは発展途上国が多い。問1では**イ**が該当する。

【釣鐘（ベル）型】

出生率が富士山型より低い一方で、老年人口が増えていることから死亡率も低いということが読み取れる。このような傾向を示すのは、フランスやイギリスなどの先進国に多く人口停滞が起こっている状況である。問1では**ア**がこれに該当する。

【つぼ（紡錘）型】

出生率が釣鐘型に比べてさらに低い一方で、死亡率も同様に低く少産少死で人口減少が起きている国を表している。この傾向はドイツや日本などの国で見られ、問1では**ウ**が該当する。人口ピラミッドは人口転換によって富士山型→釣鐘型→つぼ型の順に変化する。

問2 **24** 正解は①

難易度 ★★★★★☆

解説

各国の人口と食料事情に関する問題。しっかりと表を読み込んで、特徴のある部分から判断していこう。

- カ** **栄養不足人口率**である。高位の国がサハラ砂漠以南のアフリカに集中しており、アメリカ合衆国が低位になっていることから、経済的に困窮している国で数値が高くなる指標であるとわかる。
- キ** 高位の国が世界中にあり、アメリカ合衆国など穀物を多く生産・および輸出している国が入っていることから**穀物自給率**である。なお、先進国で栄養不足人口率が高いとも思われず、またロシアやイギリスでの人口増加率はそこまで高くないことから、穀物自給率と判断することもできる。
- ク** アフリカ、南アメリカ、東南・南アジアでの中位・高位が多いということから**人口増加率**とわかる。なお、中国が入っていないので、人口増加率ではないと判断した人がいるかもしれないが、中国では**一人っ子政策**の導入などにより出生率が低下していることもあり、人口増加率はそこまで高くはない。さらに、アメリカ合衆国が入っているの、栄養不足人口率の可能性は低いと考えられる。
- 以上より、**カ**が栄養不足人口率、**キ**が穀物自給率、**ク**が人口増加率となる組み合わせの①が正解である。

問 3 25 26 正解は①と④（順不同）

難易度 ★★★☆☆

解説

日本の職業に関する諸問題についての設問。農業や漁業およびその取引に関する総合的な知識が必要である。

- ① 誤 かつて日本では遠洋漁業や沖合漁業が盛んに行われていて、漁獲量世界一を誇っていた時代もあったが、排他的経済水域の設定や石油危機の影響によって日本の遠洋漁業は衰退し、日本の遠洋漁業による漁獲量は減少している。
- ② 正 日本では基幹作物とされる米の生産に関しては保護していたが、1970年代より減反政策を開始して米の生産調整に着手した。
- ③ 正 家畜を育てるためには、飼料としてトウモロコシなどを多く消費するため、肉消費の増加によって食料の供給が不安定化することは十分に考えられる。
- ④ 誤 フェアトレードとは、発展途上国の生産者が持続的で安定的な生活を維持できる公正な価格を設定した上で取引をする取り組みであり、日本でも広がっているがシェアはまだ低水準である。よって、下線部は適当でない。
- ⑤ 正 日本では大量のエビが消費されるが、その消費の需要を満たすために大量のマングローブ林がタイなどで伐採されてエビの養殖池が作られたために、現在はマングローブ林が減少している。
- ⑥ 正 日本では遺伝子組み換え作物に関する問題や BSE、狂牛病などから、海外からの輸入食品に対して食の安全性を確保する必要性に迫られている。

問 4 27 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

女性の社会進出に関する問題。宗教やその国の経済の発展状況を理解していれば容易に解けるだろう。

- ① フィリピンに該当する。①と②は合計特殊出生率がともに高いことから、いずれも発展途上国とわかる。①と②のどちらかがサウジアラビアで、もう一方がフィリピンであると考えられる。女性国会議員の割合に注目すると、②は0と極端で、これはキリスト教が国教のフィリピンではありえない。よって、①がフィリピンに該当する。正解は①。
- ② サウジアラビアに該当する。サウジアラビアは、イスラーム教が国教であるため女性の社会進出が進んでいないことを考慮すると、女性国会議員の割合が0であるのはうなずける。
- ③ スウェーデンに該当する。女性国会議員の割合が45%と高く、女性の労働力率も77%と高いスウェーデンでは、女性の社会進出を推進するために議員の25%以上を女性とするクォーター制という制度が広がっていることもあって、女性国会議員の割合が高い。
- ④ 日本が該当する。①と②を判別し、③よりも女性の社会進出が進んでいないことから、日本とわかる。

◆参考 合計特殊出生率

女性1人が、生涯に産む子供の平均値。日本では、2.07を下回ると人口が減少するといわれている。日本の合計特殊出生率は1.46（2015年）である。一般に発展途上国で高く、先進国で低い。しかし、北欧など福祉が充実している地域では職住近接、短い労働時間、保育園の整備、休暇制度の充実（育児休暇中の所得保障など）の環境整備が功を奏して、合計特殊出生率は上昇に転じている。

問5 28 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

日本が行っている国際協力についての問題。時事的なテーマを扱っている。こうした日本の取り組みに関するニュースなどには、日頃から気を配っておきたい。

- ① 正 日本はフィリピンでコシヒカリの栽培方法を教えるなど、東南アジアやアフリカで農業生産が安定するよう、**農業技術指導**などを行っている。
- ② 正 日本の国土は津波や洪水による被害が多く出るので、自国の技術を生かして南アジアや東南アジアなどで災害による被害軽減への**国際協力**を行っている。
- ③ 誤 日本は海外現地での人道的支援は多く行っているが、国内への難民受け入れに関しては**積極的ではなく**、職業訓練のための難民受け入れなども行っていない。正解は③。難民受け入れについてはニュースなどで頻繁に取り上げられているので、チェックしておきたい。
- ④ 正 南アメリカやアフリカに限らず、日本は環境に配慮した**技術の輸出**を積極的に行っている。

(制作：後藤尚丈，梶凌慎)

2015年度 センター試験 本試験 地理 A

第5問 地域調査（北海道富良野市）

出題範囲	地形図読図，生活文化，調査結果読み取り，植生
難易度	★★★☆☆
所要時間	10分
傾向と対策	2015年度の第5問は，センター試験では地理A，Bともに毎年出題される地域調査に関する大問である。他の大問と比較しても出題がパターン化されており，よく資料を読み込めば解答できるものがほとんどである。特に2015年度は問5の植生に関するもの以外は，思考力や読み取りの力を試される問題ばかりで，どれだけ演習量を積んだかと，落ち着いて解けるかどうかがかが力を握る。きちんと得点しておきたい大問であることを意識しよう。

問1 29 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

線路の東側（地勢図上では右側）の景観を地勢図から読み取る問題。土地利用に関する問題は例年頻出なので，地図記号をしっかりと暗記しよう。

- ① 誤 P 駅と Q 駅の間，東側にはおもに畑・牧草地が広がっており，市街地（図では黒塗りの四角で表されている）は Q 駅周辺に小さく存在するだけである。したがって，文中の「連続して市街地が見えた」の部分は誤りで，適当でない。
- ② 正 Q 駅から見て南東，R 駅から見て東の方向に「富良野岳」（標高 1,912m）がある。また，線路と富良野岳山頂の間には「上富良野演習場」が広がっており，景観を遮るような山や建物は存在しない。文は正しい説明で，適当である。正解は②。
- ③ 誤 R 駅を過ぎて，すぐ隣の「なかふらの」駅付近に小さな市街地や公共施設（中富良野町役場）があるが，R 駅の手前には存在しないので，文の記述は誤り。
- ④ 誤 R 駅と S 駅の間，東側には手前に田，奥に畑・牧草地が広がっている。果樹園の地図記号は見られないので誤り。

問2 30 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

積雪に対応していない工夫を選ぶ問題。積雪により発生する生活面での問題を具体的に想像することが求められる。

- ① 誤 太陽電池をつけること自体が工夫であるのか、太陽電池を「上部に」つけることが工夫であるのか、一読しただけでは断定できない。両方とも確認しておこう。積雪のある時期は日照時間が少なく太陽光発電には当然不向きなので、太陽電池をつけること自体が積雪に対応した工夫であるとはいえない。また、「上部に」太陽電池をつけるのは、電池パネルが影に入ることを避ける（良い日当たりを確保する）ためであると考えられ、これも特に積雪に対応しているとはいえない。どちらにしても積雪とは関係ないので、この文は適当でない。
- ② 正 信号機は、積雪の重みで信号機が破損することを防ぐために上部の面積を減らし、できるだけ上部に雪が積もりにくい構造になっている。
- ③ 正 積雪によって車道と歩道（路側帯）の境界線が見えなくなっても、標識を手がかりに正しい場所を通行できるようになっている。
- ④ 正 雪国の消火栓は、一部が積雪に埋もれてしまっても、上部にホースを取り付けて消火活動に利用できるようになっている。

問3 31 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

新旧地形図の比較問題。正確な読み取りが求められ、解答には時間を要する。

- ① 正 1921年の地形図を見ると、市街地（図では網かけの四角で表されている部分）はおもに駅の西側に隣接している。また2004年の地形図を見ると、その市街地が拡大し市役所・病院・裁判所などの公共施設が作られたことがわかる。
- ② 誤 2枚の図で空知川を見比べると、蛇行していた流路が改修により滑らかに変わっている。このような場合に、以前は河川が流れていた所を「旧河道」と呼ぶ（土地が低い・地盤が緩いなどの特徴がある）。しかし、2004年の地形図を見ても空知川の旧河道付近に鉄道ができた形跡はない（空知川に沿って建設されているのは堤防である）。また、2004年の地形図において、「空知川」の字の左下のあたりに郵便局が新設されているが、これも「旧河道の一部を活用」しているとはいえない。
- ③ 正 2004年の地形図の南西部、空知川の西側を見ると、道路整備とともに宅地開発が進んでいることがわかる。また「富良野スキー場」「ゴルフ場」の文字も見られるため、文は適当である。地図記号だけでなく、文字も見落とさないように注意しよう。
- ④ 正 1921年の地形図の東部に広がっていた荒地と湿地の大部分が、2004年の地形図では水田に変わっている。格子状の区画に合わせて道路整備が進み、東南部を蛇行していた「ベベルイ川」（古い地形図では、横書きの文字は右から左へ読む）の流路も滑らかに変わっている。

問 4 32 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

統計数値を地図上に表現したものを「統計地図」という。本問のような統計地図を使った問題を解く場合、まずは、図から直接読み取れる情報と各文の説明内容が一致していることを先に確認しよう。例えば選択肢文①の場合、「盆地を中心に農家が分布している」という説明が図と合っているかを確かめる。「新たな品種が開発され」などの部分は、図から直接読み取れないので後回しで問題ない。本問は読み取りさえ間違えなければ簡単であろう。

- ① 正 図 1 の地勢図と図 3 の統計地図を見比べると、Y の南西部の盆地を中心に水田が広がっていることが読み取れる。北海道は寒さが厳しく、稲の生育に適した温暖な期間が短いため、寒さに強く生育が早い品種の開発が進められた。北海道で開発された米の品種としては「ななつぼし」「ゆめぴりか」「きらら 397」などがある。
- ② 誤 文中の「ほとんどの農家は丘陵地に分布し、盆地にはみられない」は、明らかに誤っている。ジャガイモ農家は、盆地・丘陵地を問わず幅広い集落に満遍なく存在することが読み取れる。ジャガイモは寒さに強く、巨大な灌漑設備かんがいも不要なため北海道では盛んに生産されており、都道府県別生産量は第 1 位である。じゃがいもは「貧者のパン」と呼ばれ、寒冷な気候に耐えること、痩せている土地でも育つこと、作付面積当たりの収量も大きいことから、世界各国で栽培されている。
- ③ 正 米やジャガイモに比べると乳牛農家の戸数を表す点の密度は低く、戸数は少ないことがわかる。文は適当である。また、乳牛農家は Y の東西両側にそびえ立つ山の斜面や丘陵地に点在していることが読み取れる。山の斜面や丘陵地が乳牛の飼養に利用される理由としては、耕作が困難であることや地価が安いことなどが挙げられる。
- ④ 正 図 1 内の「上富良野演習場」周辺や、土地利用を表す地図記号がない場所に注目して図 3 の統計地図を見ると、確かにそれらの場所では農家の戸数が少ない（または存在しない）ことが読み取れる。

問 5 33 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

日本の林業を題材とした、植生とグラフ読み取りの問題である。

- サ 落葉広葉樹が入る。森林の樹種に関する問題。森林は北から、針葉樹林（亜寒帯）→落葉広葉樹林（温帯）→常緑広葉樹林（温帯・熱帯）の順で生育する木の種類が変化していく。寒冷地ほど木の葉が小さく（細く）なるのは、降水量が少なく乾燥しやすい寒冷期に、葉の蒸散作用によって水分が失われることを避けるためである。落葉広葉樹が秋から冬にかけて葉を落とす理由もまったく同じである。「混交林（混合林）」とは、北海道のような冷帯と温帯の境目の地域に分布する、落葉広葉樹と針葉樹が混ざり合った森林のことである。
- シ 上昇が入る。木材に限らず、農作物や製品の自給率は国内生産量を国内消費量で割ることで求められる。輸

出量と輸入量の値は本問では使わない。2002 年と 2012 年の値を比較すると、国内生産量が増加している一方で国内消費量は減少している。このことから、以下のような細かい計算をしなくても木材自給率が上昇していることがわかる（もちろん時間に余裕があれば計算してもよい）。

$$2002 \text{ 年} : \text{国内生産量} \div \text{国内消費量} \times 100 = 16,920 \div 89,195 \times 100 \doteq 19.0\%$$

$$2012 \text{ 年} : \text{国内生産量} \div \text{国内消費量} \times 100 = 20,318 \div 70,769 \times 100 \doteq 28.7\% \rightarrow 9.7\% \text{ 上昇}$$

よって、サに落葉広葉樹，シに上昇が入る組み合わせの③が正解。「自給率」と聞いて先入観で「減少」を選ばないように、与えられた数値の読み取りは慎重に行おう。

問 6 34 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

地域観光を題材とした単純なグラフ読み取り問題であるが、問題文の直後にある注を必ず確認すること。「夏季」と「冬季」が何月を指すのかが、読み取りに大きく関わってくる。また、「下線部が適当でないもの」を選ぶ問題であるから、下線部以外の説明について深く考える必要はない。

- ① 正 1970 年度と 1980 年度の間で、冬季の各月の観光客数とそれ以外の各月の観光客数の差（ピークの大きさ）を大まかに比較すると、1970 年度は 5 万人程度であったのが、1980 年度には 20 万人程度に**拡大**している。
- ② 正 1990 年度のグラフに注目すると、夏季・冬季ともに、それ以前の観光客数を大きく上回っており、特に夏季に**新たなグラフの山が生じた**ことが読み取れる。下線部は適当である。
- ③ 誤 2000 年度の夏季・冬季の観光客数を大まかに読み取り、計算して比較する。
 夏季…7 月：約 40 万人 8 月：約 30 万人 9 月：約 15 万人 → 合計：約 85 万人
 冬季…1 月：約 25 万人 2 月：約 20 万人 3 月：約 25 万人 → 合計：約 70 万人
 夏季の合計が冬季の合計の 2 倍以上であるとはいえないので、下線部は適当でない。
- ④ 正 2010 年度においては、5 月・6 月・9 月・10 月・11 月の 5 つの月で月別観光客数が**過去最高**となっている。このうち夏季・冬季に含まれるのは 9 月だけである。

(制作：荒井有人，高橋粒)